

大家や不動産屋が変わると、

まちは変わる2

When the landlord or real estate agent changes,
the town changes.

3 Lecturer



2025

10.22 WED
19:00 - 21:30

□会場 千葉市役所 1F 市民ヴォイド（千葉市中央区千葉港1番1号）

□定員 40名程度（事前申込制）

□参加費 市内参加者（千葉市在住・在勤）2,000円

市外参加者 2,500円

※参加費には夜ごはん・1ドリンクを含んでいます。

セミナー&交流会
詳細・申込は[こちら](#)

主催 千葉市



企画・運営





深野 弘之
Hiroyuki Fukano

ニシイケバレイ
<https://nishiikevalley.jp>



1970年東京都生まれ。株式会社深野商事代表取締役。深野家17代目当主。妻と小学生の娘と3人暮らし。先祖からバトンを受けた豊島区西池袋の一隅を2020年7月から「ニシイケバレイ」と称し、大家業を営む。顔の見える関係がゆるやかに豊かにつながる場を醸成することを目指して、所有する物件を次々とリノベーション。様々なまちの仲間と協働して、共同住宅、飲食店、雑貨店、シェアオフィス・シェアキッチン、パルクール施設などが連なる一帯をつくりだしている。



河邊 政明・典子

Masaaki Kawabe
Noriko Kawabe

トダくらし不動産
<https://toda-kurashi.com>



それぞれ大学を卒業した後、同じアパレル会社に就職。そこで出会い、結婚する。夫・政明は、1996年から父の経営する埼玉県戸田市の平和建設株式会社へ入社。東日本大震災をきっかけに日本ホームインスペクターズ協会(JSHI)公認資格を取得し、現在理事に就任。妻・典子は、結婚を機に2001年から同社へ入社、和モダン水引協会大使(講師)も務めながら、二人三脚で40年以上続くまちの不動産屋の新しい形に挑戦している。2015年より特定非営利活動法人 CHAr(旧NPO法人モクチン企画)と協働を開始し、2017年から『空きバコ』を『宝のハコ』へをスローガンに、空き物件に新しい価値を生み出し魅力的なまちをつくる「トダピース」プロジェクトを始動。2020年にはアトリエのある職住一体型の新築木賃アパート「はねとくも」を新築、「あなたの個性がまちの価値になる」をコンセプトに、1Fのシェアスペース&コモンテラスを使ってマルシェなどを開催しながらエリアの価値を創造中。昨年は新屋号「トダくらし不動産」として新たなスタートを切り、不動産のその先にある「くらし」にこそ自分たちの仕事があると感じ「不動産屋がやらなくていいこと、でも不動産屋だからできること」に取り組んでいる。



青木 純
Jun Aoki

青豆ハウス
大家の学校
<https://mamekurashi.com>



1975年東京都生まれ。コミュニティが価値を生む賃貸文化のパイオニア。「青豆ハウス」(2014年)や「高円寺アパートメント」(2017年)では住人と共に共同住宅を運営、主宰する「大家の学校」(2016年)で愛ある大家を育成する。生まれ育った豊島区を起点に都電荒川線沿線に飲食店「都電テーブル」(2015年)を展開、「南池袋公園」(2016年)や池袋東口グリーン大通りを舞台にした「IKEBUKURO LIVING LOOP」(2017年)では地元企業と共に創して官民連携事業に取り組み、グッドデザイン賞2024で地域社会デザインのグッドフォーカス賞(日本商工会議所会頭賞)受賞。著書に『パブリックライフ一人とまちが育つ共同住宅・飲食店・公園・ストリート』(馬場未織共著)。日本全国で人と空間の関係を編集してパブリックライフを創造している。



深野さん・河邊夫妻は、講師の青木純さんがプロデュースする「大家の学校」(2016年スタート)の卒業生でもあります。全国各地で大家や不動産業がまちを変える先進事例が増えています。本講演会はその事例を体感いただける機会です。